

命の パスポート

シリーズ 149

箕面市では、迅速な安否確認をするために 黄色いハンカチ作戦を進めています!

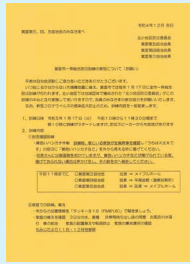
平成30年6月18日、大阪府北部を震源とする震度6弱の地震が発生し、市内では建物が半壊するなどの被害が発生しました。一方、地震発生直後の混乱の中、「黄色いハンカチ作戦」を行った自治会*では、迅速な安否確認をしていただきました。

大規模災害時には、隣近所の人たちで素早く安否確認を行い、救助が必要な人を早く見つけることが、命を守るために非常に重要です。災害時の被害を最小限に抑えるため、今後とも「黄色いハンカチ作戦」にご協力をよろしくお願いいたします。
*自治会にはマンション管理組合を含みます。



箕面第四自治会 会長 小泉 博さん

箕面第四自治会は、戸建てを中心に約200世帯が加入する自治会です。いざというとき、迅速に安否確認ができるよう、全世帯を20班に分けて安否確認分担票を作成し、「黄色いハンカチ作戦」を想定した防災訓練を定期的に行っています。毎年1月17日の全市一斉総合防災訓練では、北小地区防災委員会と連携して黄色い用紙を



使った案内文を用意し、自治会員に限らず、自治会区域内にある全てのお宅に配布しています。訓練当日は、案内文を黄色いハンカチの代わりに掲げることもでき、参加率の向上につながると思います。

箕面第四防災会 会長 角山 年昭さん

箕面第四自治会がある地区は、古くからの住宅街で、高齢者世帯が多くあります。加えて坂道も多く、一部はレッドゾーン(土砂災害特別警戒区域)に含まれています。そうした状況から、自力での避難が難しいかななどの情報をまとめた支援者リストを作成し、災害時の優先的な安否確認や、避難のサポートを行う体制を整えています。また、普段から地域防災ステーションの点検訓練や、防災講演会を開催して防災意識を高めているほか、より安全な避難行動につなげるためにも、自治会区域内の危険箇所・問題箇所点検を行っています。



災害時「うちは大丈夫」の目印は 黄色いハンカチ作戦!

阪神・淡路大震災では

8割 近いかが地域の絆で 命を救われました

地震などの災害が発生したとき、公的な機関だけで全ての命を救うことはできません。

阪神・淡路大震災では、消防や警察などに救助されたかたは2割程度しかおらず、約8割のかたは、自治会など地域のかたに救助されました。

近隣の住民ら
によって救助された **77%**

消防・警察・自衛隊に
救助された **23%**



阪神・淡路大震災で救助された人の救助要因

隣近所の素早い安否確認が、多くの命を救うことになります!

左ページで「黄色いハンカチ作戦」の流れを確認してください!

毎年1月17日に全市一斉総合防災訓練を行います!

箕面市では、阪神・淡路大震災が起きた1月17日に毎年、曜日に関わらず全市一斉総合防災訓練を実施しています。

来年の訓練は水曜日です! それぞれの場所で、それぞれの立場で、訓練に参加してください!

黄色いハンカチ作戦の流れ

地震発生! 揺れが収まったら...

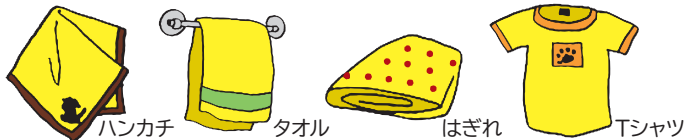
まず 靴をはいて家の中を点検し、**二次災害を予防してください!**



次に 家にいる家族が全員無事だったら **黄色いハンカチ作戦!**

大地震の後、家にいる家族が全員無事だったら、黄色いハンカチ(大きく目立つ黄色い布)を玄関先などに掲げてください!
災害時、ご近所さんに「うちは大丈夫!」と知らせる目印です!

大きく目立つ黄色い布なら何でもOK!



**黄色いハンカチ作戦を行えば
安否確認がスピードアップ!
いちいち「ピンポン」しなくても
外から一目で無事と分かります!**

黄色いハンカチ作戦を行わないと...

黄色いハンカチがないと、1軒1軒「ピンポン」して安否確認をするので、とても時間がかかります。応答があるまで無事かどうか分かりません...



迅速な安否確認のために、大きく目立つ黄色い布を各ご家庭で必ず用意してください!